News Letter

国　際　農　業　機　械　化　研　究　会

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町１-１２-３　新農林社内　電話　03-3291-5718･3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP 101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718･3674

News Letter　通巻　470 号　　2014. 2. 13

発行責任者
岸　田　義　典

目　　次

■アフリカの農業機械化と米穀流通の現状……2
㈱徳本適正技術研究所　徳本　靖　氏
■国別輸出入（2013 年 12 月）……9
■ WORLD NEWS……19
■ EVENTS CALENDER……20

2014

Vol. 1

アフリカの農業機械化と米穀流通の現状

株式会社徳本適正技術研究所
徳本　靖　氏

国際農業機械化研究会は，㈱新農林社と共催で，第 470 回海外農業機械事情報告会を平成 26 年 1 月 27 日（月）に開催した。講師は，徳本適正技術研究所の徳本靖氏。徳本氏は，約 40 年にわたって，東南アジアやアフリカの農業技術支援に携わってきた。その経験をもとに，新しい情報や問題点を交えながら，「アフリカの農業機械化と米穀流通の現状」と題して報告した。
要旨は以下の通りである。

アフリカについてはこれまでも話をしてきましたが，また新しい情報も入ってきているので，それも含めてお話したいと思います。

私の最初のアフリカでの仕事は 1978 年，ビアフア戦争が終わって間もないナイジェリアでした。アナンブラ州にあるロアーナンブラー開発計画に携わり，民間コンサルタントの大先輩たちと一緒に収穫処理技術を教えてきました。30 歳の頃です。ナイジェリアでは，近代的な稲作はまだ始めたばかりでした。それまでは米国のアルクルベン社のパーボイル米が PL480 のシステムで大量に入ってきていました。これは無償援助でしたが，有償部分の調達も一緒にやっていました。ナイジェリアでは，米の生産を始めて，輸入量をできるだけ減らしていきたいという国の思惑もありました。当時，国民の主食はヤムイモで，米栽培・増産を図るため，JICA の技術協力と無償援助で，パーボイル米処理装置込の精米工場建設を進めていました。

その後，アフリカの 10 数ヶ国の ODA に関わってきており，現状やこれからの問題点についてお話したいと思います。

アフリカの米生産の問題点

アフリカの米の生産高は，一番がエジプト，二番がナイジェリア，三番がマダガスカルです。それにギニア，マリ，タンザニア，シアレオネ等が飛び抜けています。その他の国は JICA が協力し，ネリカ米（陸稲）を中心に生産を増やそうと進めています。

アフリカでの稲作は，たくさんの問題を抱えています。そのなかでも一番の問題は，品種が固定されていないことです。在来品種，改良品種，ネリカ米，ローカルな品種でも長い，短い，赤い，黒いとバラバラです。今後，いろいろな面でこれがブレーキとなってしまうと考えています。

品種管理

種の管理についてお話します。ここ 3 年，スーダンで稲作の協力をしています。ネリカ米そのもの，優良種子を普及することが，やっと始まったところです。在来種は，数十年来の種が混種している状態です。背丈が違うので，圃場に入っただけでわかります。

アジアとアフリカが一番異なるのは，アジアでは品種が管理され，美味しい米，まずい米，病害虫の対応性のいい米を各国政府が推奨米として提供し，明確に打ち出していることです。しかし，アフリカでは，最近やっと在来種やネリカ米の栽培普及がスタートしたばかりです。まだ種子，有良種子を生産配布する体制を抜きに動いています。

品種が固定されていないと，精米の歩留が一気に落ちます。精米はある程度の品種，形状をもとに行います。これに大きい，小さい，硬度の違う品種が混ざると，一番弱いものにあわせるので，ほとんどのお米が割れてきます。

図1　スーダンの NERICA 在来種（赤）との混種